

“ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

施策(中柱)	安心して子どもを生み育てられる環境整備
--------	---------------------

1 基本情報

実施日/班名	9月7日 第1班	時間	15:30~16:10
--------	----------	----	-------------

2 レビューの結果 今後の方向性

	事業名	重点化	縮小
結果	こども医療費助成	18	2
	緊急子育て支援事業費助成	10	5
	保育対策等促進事業費助成	22	2
	ふじのくに地域企業ワーク・ライフ・バランス支援事業費	2	21

3 県民評価者の意見

(1)見直し・改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保の充実。地域に合致した事業支援。寺子屋でも良い人材があれば子育て支援ができる。近年職場でも保育サービスをしているので、会社同士が共同で子育て支援ができる。 ・ 子ども医療費助成は、病気を重症化させない為にも継続して行ってもらいたい。対象年齢、所得対象は県で統一すべき。 ・ 緊急子育て支援事業費助成は、待機児童の数を把握してからの取り組みでは。 ・ 保育対策等促進事業費助成は、保育士の人材育成にも力を入れていてもらいたい。 ・ ワーク・ライフ・バランスは企業がやるべきなのは。 ・ 「保育対策等促進事業費助成」は女性の就業形態の多様化や共働き、一人親等、延長保育など多様な保育が求められているため最重要課題としてとりあげていただきたい。 ・ こども医療費助成について、所得制限基準を考えて金額を決めた方が良い。 ・ 緊急子育て助成については、保育対策等促進事業費助成に統合して保育対策等推進事業費助成を重点的に実施すべき。 ・ WLB支援については、企業主が納得しないと始まらないので縮小すべき。 ・ こども医療費助成、緊急子育て支援事業費助成、保育対策等促進事業費助成の3事業は目的としている「安心して子どもを生み育てられる環境整備」に必要不可欠であり、具体的な効果がみられるので重点的に実施して下さい。 ・ ふじのくに地域企業ワーク・ライフ・バランス支援事業費は普及率が低く、効果はあったようだが、その割に広がりがないので廃止する方向で検討して頂きたい。 ・ ふじのくに地域企業ワーク・ライフ・バランス支援事業については、他の3事業とは異なった視点から、今までとは違ったアプローチの方法を考える必要あり。「安心して子どもを生み育てられる環境整備」として、当事業を成功させることは重要だ。よりしたたかに、ねばり強く戦略をねって、対応してくだされば何よりです。 ・ 保育サービスの充実については、考えられるすべての方策を実施してほしい。 ・ ワーク・ライフ・バランスは、具体的な効果は期待できないと思うので縮小すべきである。 ・ 地域や職場での子育て支援と保育サービスの充実は、子供の未来に対する事項であり、育つ者、育てる者が無理なくすくすくと育つことこそ富国富民の理想郷に向かう道である。 ・ ワーク・ライフ・バランスについては、無くしてはならないのではないかと。 ・ 子育て支援の観点で医療費補助は引き続き実施していただきたい。

- ・ こども医療費助成、緊急子育て支援事業費助成は子育て家庭にとって必要性を感じる。
- ・ ワーク・ライフ・バランス支援事業は、企業（民間）が主体となるため県の寄与は少ないので縮小したほうがよい。
- ・ 保育などソフト（・ハード）面で、もっと充実して地域が生き生きしていくことが必要。
- ・ 保育対策促進事業費助成が子供医療費助成、緊急子育て支援事業費助成を総合的に包括しているから（保育対策等促進事業費助成を重点的に実施するべき）。注記：こども医療費助成は国の事業にすべきであり、緊急子育て支援事業費助成は当面の箱もの事業でしかないからである。
- ・ ワーク・ライフ・バランスは、個別企業の問題だから縮小すべきである。
- ・ こども医療助成は、子育て家庭の経済的負担の軽減に役立っている。
- ・ 緊急子育て支援事業助成は、箱を作るより、他サービスの充実を図るべき。
- ・ 緊急子育て支援事業費助成と保育対策促進事業費助成の2つの事業は、今後、女性の社会進出をサポートするために重要なもの。社会のニーズは確実に多様化していますので、どういうニーズが存在するのかを県はよりきめ細かく拾い上げていくことも合わせて大切にすべきである。
- ・ ワーク・ライフ・バランス事業は、国で行うといっても、もっと意味のないものになるような気がします。事業そのものは必要なことであるので、より効果のある内容とするための努力をしていただければと思います。
- ・ こども医療事業は対象者、負担区分を縮小しても県民の過度な負担にはならないと感じた。
- ・ 緊急子育て事業を継続するなら、20～30年後の維持管理費への補助まで視野に入れるべきである。
- ・ 保育対策等促進事業は基金の無駄遣いを感じる事業がある。
- ・ ワーク・ライフ・バランス支援事業は的確なマーケティングを行うことで、多角的な視野、分野でプラスに働く項目が多く、発見できる可能性があると感じた。
- ・ 親の収入が伸び悩んでいるなか、病気、事故が多くなっています。子供の医療費が助成されるなら、親は安心できると思います。なるべく申請手続きなど役所的でないことを願います。
- ・ こども医療助成については、子育て家庭の経済的負担の軽減並びに疾病早期治療やネグレクト対策に効果が高いので、重点的に実施するべき。
- ・ ワーク・ライフ・バランス支援事業は各企業にまかせるべきものだと思うため、縮小すべき。
- ・ ワーク・ライフ・バランスは啓蒙的な要素があり、志があるものが実施すべきで、それに気がつき県がやろうとしている。誰かがやらなくてはいけないと思う。損得で判断してやるものではないので大変ですが、進めてください。
- ・ こども医療費助成は、施策の背景が古く、新しく刷新し対応してもらいたい。
- ・ 保育対策事業は、もっと積極的に実施すべきだと思う。ワーク・ライフ・バランスは民間機関等がやっている。県がやる必要はない。
- ・ 保育対策等促進事業費助成はうまくやれば最も「安心して子どもを生み育てられる環境整備」に貢献できると思います。やはり多様な保育に対するニーズはこれからどんどん増えていくと思うので。保育対策等促進事業費助成は拡充する方向での見直し、他の事業は根本からの見直しが必要かなと思います。
- ・ 緊急子育て支援事業と保育対策事業は、施策の方向、成果指標の目的が待機児童の解消であり、又もう一步進めて潜在的児童の入所環境の整備を進めるためにも、この両事業の連携の強化又は統合して施策の方向のために事業内容を見直して、より事業費の実績効果・効率を高める。緊急子育て支援事業は物、保育対策事業は人でありこれはどんな事業でも両輪である。
- ・ こども医療費助成については、本当に必要としている人にどう対応していくか、またどう予防していくかで、未来には元気な子供が育っていくと思います。基準の見直しは必要。
- ・ 保育対策等促進事業費助成については、手段、手法をもっと掘り下げて対応していけば、子育て支援につながると思います。
- ・ 子育て支援については、ハード面だけでなく、ソフトもじっくり検討（ニーズ調べ）すべき。
- ・ ニーズ調査の仕方をもっと検討された方がいいと思います。隠れた真実をあぶりだす必要ありと考えます。
- ・ 保育対策等促進事業費助成は、ニーズの多様化もあり、今後ますます重要な社会問題になるから重点的に実施するべき。
- ・ 低所得者について、厚くしていただきたい。

- ・隠れ待機児童の市町の実態を把握調査したら、対策を進めるべき。
- ・病児、病後児保育サービスはニーズが高いため拡大してほしい。延長保育促進については、見直して対策を進めてほしい。
- ・ボランティアとして幼稚園や保育園に関わり日々活動を目にしているが、保育園は大変であり、保育対策等促進事業費助成は重点的に実施すべきだと思う。

(2) その他の意見

- ・安心して子どもを産み育てられる環境整備のため子育てを手厚く支援する。
- ・ワーク・ライフ・バランスは、やはり現実と理想が違いすぎる。子育ては、大人達がベストをつくして、育てて咲かせたい花だと思う。今後の日本のためと思う。
- ・事業計画にあたっての数値的根拠が弱いのではと考えました。「正確には把握していません」「分かりません」という回答が何度かあったので、そう感じました。
- ・限られた予算を有効に活用し、少子化対策を県政として積極的に展開願います。
- ・幼・保の垣根は国のタテ割り行政でままならないと思いますが、県レベルで特例を設けてでも「待機児童ゼロ」に向けすすめることも必要と考えます。
- ・事業レビューする事業の事業費の額は、なるべく同等程度にすべき（今回、ワーク・ライフ・バランスがチープに感じてしまい、評価者が評価しづらいのでは？）
- ・効果を判断できる資料がほしい（複数、多角的なデータもほしい）
- ・今回は実施実績がわかるだけの資料であった。結果的に、事業費が少ない「ワーク・ライフ・バランス」事業の資料がみずぼらしく感じてしまう。
- ・事業費の積算資料を添付してほしい。せめて予算要求の時に作成する資料を分かりやすくまとめた資料を！！
- ・県側の意図として事業番号4を切り、事業番号1から3を増加又は継続させたいというのを感じてしまった。
- ・レビューの内容が、子どもが関係しているのにも関わらず、県職員の説明者や、一緒にいる方が女性が1名だけなのが気になりました。男女共同参画社会といいながら、どうなのかな？と思いました。あと、机上で考えていることと現場で起きていることは必ずしも一致するとは限らないので、机上だけで考えずに現場の意見を取り入れるような工夫もほしいと思いました。
- ・県の立場は、市町のような現場でなく、国のような圧倒的財力と権限を持った立場でもなく、とても難しい立場にいる。この県の立場を支援していくのが県議会議員であるはずなのに、今日は県議会議員が一人もこのレビューに参加していない。
- ・子どもを尊重し県を支えようとする事業、施策が多く、皆誠実で対応している。
- ・この精神がいい。損得関係にならないよう、弱者が生きていける環境を作ってもらいたい。
- ・4事業を通して、結果が明確（正しい数値）になっているのが疑問でした。
- ・ほとんどの事業が数年前から事業として行われているのだから、結果 反省を反映し次年度に生かす、県庁内でのマネジメントレビューが必要ではないでしょうか？